

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	国際関係学部日本語教員養成課程における日本語教育実習について				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	水野 かほる
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	水野 かほる

講演題目
2022年度 日本語教育実習
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>1. 研究の目的</p> <p>日本語教師に求められる資質・能力のうち、日本語教師に必要な技能・態度に含まれる実践力を身につけるため教育実習の履修が必要要件になっている。そのため、国際関係学部の「日本語教員養成課程」においては、2020年度から学外の日本語教育機関を受け入れ先とする日本語教育実習を実施しており、そのためのシラバスや活動内容の検討を行うことも本研究の目的である。</p> <p>2. 成果</p> <p>日本語教育実習を実施する科目「日本語教育実践研究」では、大学での講義と学外での実習の2本立てで日本語教育実習を実施した。2022年度の実習は、実習校の1校で新型コロナウイルス感染の影響で一時実習を中断したが、無事に修了できた。</p> <p>主な実施内容と実習の概要は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な指導項目：オリエンテーション、授業見学、授業準備、教材分析、模擬授業、教壇実習、教育実習全体の振り返り、等 ・実習期間：2022年7月～10月の10日間 ・実習生：「日本語教育実践研究」の受講生9名 ・実習校：静岡県内の日本語学校4校、ブラジル人学校1校 ・実習後、実習内容や実習生の感想等をまとめた日本語教育実習報告書を作成した。 <p>3. 今後の展望</p> <p>2022年度は、外部の日本語教育機関での日本語教育実習を始めて3年目になる。2022年度は、実習の形態がほぼ整ってきたこと、また実習生の教育実習に対する意欲が高く、実習校での授業観察や教壇実習のための教案作成等において、より良い授業の実践を目指して皆真剣に取り組んでいた。文化庁は、今後、日本語教師養成により一層力を入れると聞いている。教育実習だけでなく他の関連科目を含めて、少ない時間の中でより実践力のある教師を養成するために必要なカリキュラムの検討を進めていきたい。</p>